

中国内モンゴル自治区における 民族文化活動に関する考察 —通遼市のウランムチを事例にして—

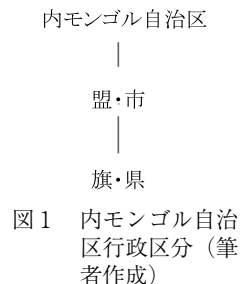
紅 桂蘭*

1. 研究の目的

中華人民共和国（以下、中国）は、現在55の少数民族を公認し¹⁾、各少数民族は多様な文化を有している。中国建国後に中国共産党と中国政府は少数民族文化の発展を推進する制度や政策を打ち出すとともに少数民族文化発展の支援策を講じ、2006年までに民族自治区には、民族文化事業拠点として文化館631館、文化ステーション（文化站）6710ヶ所、博物館190ヶ所が建設され、少数民族歌舞団体が66団体組織されている²⁾。

本研究で着目する少数民族歌舞団体の一つである内モンゴル自治区のウランムチは、民族の民衆文化生活を活性化するために創設された基層文化事業機関団体である。ウランムチは内モンゴル自治区の住民が分散して居住している状況に対応して作られた各地を巡回上演する芸術団体である。現在、内モンゴル自治区には各旗・県³⁾（図1）のウランムチ67団体、自治区直属ウランムチ1団体を含めて計68団体ある。各ウランムチは30名前後の団員によって文芸公演活動を行っている。モンゴル語で「ウラン」は「赤い」の意味で、「ムチ」は「新芽」の意味をしている。そのため、「ウランムチ」は赤い文化工作隊ともいわれている。

ウランムチは現在までに多くの民族芸術家を養成し、様々な民族作品を創作し、農村遊牧地域で上演することにより民衆の文化要求に応じて、少数民族の文化の保



* 教育基礎学専攻 大学院生

持、発展に役割を果たしてきた。ウランムチが結成された当時で作成された「ウランムチ工作条例（草案）⁴⁾」（1957年）では「ウランムチは遊牧民の政治、経済の発展にあわせ、遊牧地域の民族的な特徴に基づいて、社会主義思想や党と政府の各政策、法令及び時事を宣伝し、遊牧民の政治的自覚を高める。また、遊牧地域の民衆文化事業を発展させ、遊牧民のアマチュア文化芸術活動を組織・指導し、民族自治区における社会主義的新民族文化の発展を促進する」と提示された。ここからウランムチは建国初期における中国共産党の政策や社会主義思想の宣伝工作という性格をもっている一方で、少数民族地域にある固有の文化的伝統の保持と発展に取り組む根拠が与えられたといえる。

ウランムチが結成されてから現在までに約50年の歴史をもっている。この約50年において、ウランムチは国の政治や政策により大きく左右され、ウランムチの役割に変化が起こった。上述のように、ウランムチの性質、方針、任務、活動原則、基本的活動方法、組織分業などを規定した「ウランムチ工作条例（草案）」が提出された。その後、ウランムチは内モンゴルに多く結成された。しかし、1966年に始まる「文化大革命」により、ウランムチの活動は停止され⁵⁾、一部のウランムチは「毛澤東思想宣伝隊」と改称され、政治的宣伝活動が主目的となった。1970年代後半になり、ウランムチの活動は回復し、民族的特色を重視することが強調された。1980年代に入り、内モンゴル自治区ウランムチ学会が設立され、1990年代にはウランムチの改革が始まり、内モンゴル文化局はウランムチの建設を強化するとした。そして、2000年代に入ってウランムチはモンゴル民族文化の著名なブランドとする政策がとられた。つまり、ウランムチが上演する歌、踊りはモンゴル文化を体現したものであるという評価を定着させていった。国内外では、ウランムチの上演活動を開拓し、ウランムチの知名度を高めるとした。

また、1985年に出された「内モンゴル自治区ウランムチ工作条例」では、ウランムチは上演、宣伝、指導、奉仕という4つの任務をもつことが規定されている⁶⁾。特に、農村遊牧地域に入り、農民、遊牧民に上演奉仕するのはウランムチの重要な任務であると指摘している。しかしながら、近年では、政府はウランムチの活動を当地の党委員会、政府の行事日程に組み込み、重要な会議演出、商業宣伝上演活動、接待演出の活動を中心に行うことが強調されている⁷⁾。近年では

ウランムチは「文化と企業」の連携という方針をとり、ウランムチの上演は農村遊牧地域の上演から行政イベントへの上演に移行するようになっている。

筆者はウランムチの草創期から現在までを図2に示したようにウランムチの活動の変化に基づいて4つの時期に区分した。

本稿では、1990年から現在までを含むウランムチの改革期に着目する。この時期に社会主義市場経済の導入という経済改革を受けて、ウランムチがどのような変容を受けていることを考察する。すなわち、市場経済のもとで民族文化が商品化する傾向もみられるが、そうしたなかでウランムチによる民族文化活動がどのように変容しているかを明らかにすることである。

これまで中国国内では、ウランムチに関する研究はあるが、ウランムチの現状の紹介にとどまっている。例えば、賽罕⁸⁾は「文化と企業」の連携はウランムチの改革の新しい道であると指摘しているが、市場経済がもたらすウランムチの活動の変化についてふれていない。

そのほか、民族文化に関する研究としては国家民族事務委員会文化宣伝司等編の論文集『中国少数民族文化発展報告(2008)』(民族出版社、2009年)(以下、『報告』と略す)がある。『報告』では、中国少数民族の文化の消失、変容についてさま

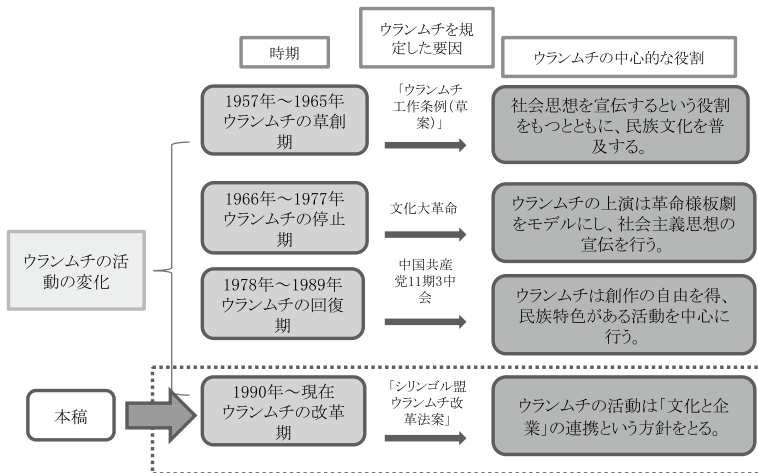


図2 ウランムチの活動の変化と本稿の対象時期（筆者作成）

ざまな視点から検討し、民族文化の保護、保持の対策を行うべきであることが論じられた。例えば、方李莉⁹⁾は貴州市の生態博物館（エコミュージアム）に着目し、伝統文化の保護と観光の間で生じている問題をどのように適切に解決するかということについて論じた。また、『報告』では、白潤生¹⁰⁾の少数民族新聞雑誌の歴史と現状についての研究、李曉東¹¹⁾の少数民族古典籍の保護についての研究などが載せられている。それらの研究は現在の少数民族の文化の消失という問題に着目し、民族文化を保護し、民族文化を観光化に結びつけながら文化の保護の方法を探っている。しかし、少数民族文化が国の政策、経済や社会変動にどのような影響を受けているのかということについては十分に論じられていない。

本研究では、通遼市文化局に所属しているウランムチの検討を通じて、内モンゴル自治区における民族文化活動が市場経済のもとで、どのような影響を受けているかを明らかにすることを目的とする。

2. 通遼市の概要と対象事例

本稿で通遼市のウランムチを事例として取り上げる理由について説明したい。

通遼市は図3のように、内モンゴル自治区の東部地域に位置する。東に吉林省、南に遼寧省と隣接している。歴史的には、1969年に通遼市（ジェリム盟¹²⁾）は吉林省と合併したが、その後1979年に通遼市は内モンゴル自治区に返還された。また、通遼市は遊牧地域から半農半牧地域に変容した地域でもある。このような歴史的な経緯の中で、漢族とモンゴル族、他の少数民族が混住している地域である。

通遼市は1市轄区、1県級市、1県、5旗から構成され、漢族は159.23万人（50.72%）、モンゴル族は144.13万人（45.92%）、その他の少数民族は10.5万人（3.36%）である¹³⁾。通遼市はモンゴル族の地域文化—ホルチン文化¹⁴⁾の発祥地域であるともいわれる。ホルチン民歌、安代舞踊、モンゴル族の口承文芸であるウリゲルはホルチン文化の代表的な文化である。通遼市には1県、5旗があり、ウランムチは6団体がある。

2003年に、内モンゴル自治区政府は「内モンゴル民族文化大区建設綱要（試行）」（以下、綱要と略す）を打ち出した。綱要では豊かな社会（小康社会¹⁵⁾）と



図3 通遼市の位置

経済社会の調和発展の要求に一致する民族文化発展の新しい基盤をつくることを目標とした。綱要では、第一に、民族の特色や地区の特性を強調した地域づくりを目指す、第二に、少数民族の優秀な人材の養成を目指す、第三に、民族文化活動の拠点となる文化施設を整備する、第四に、民族文化の保持保護を行う、第五に、映画、出版、文化観光などの文化産業を奨励することが目指されている。そして、内モンゴル自治区の多くの地域は「民族文化大区」（民族文化大地域）に指定された。例えば、通遼市のジャルト旗は「中国民間芸術の郷」、「中国曲芸の郷」、クロン旗は「安代の郷」、ホルチンジュンガルンヘートシュは「ホルチン叙述民歌の郷」という名称がつけられている。これら3つの地域に所属しているそれぞれのウランムチがこの3つの地域の文化形成に大きな役割を果たしている。本研究では、この3つの地域に所属しているジャルト旗ウランムチ、クロン旗ウランムチとホルチンジュンガルンヘートシュ（以下カンキカウランムチ¹⁶⁾）ウランムチをとりあげ検討する。

3. ウランムチによる文化活動の実態

本節では、内モンゴル自治区における文化活動の実態を1990年以降のウランムチの改革期の検討を通じて明らかにする。

(1) ウランムチの改革の始まり

はじめにウランムチの改革期にいたる歴史的な背景にふれておきたい。

1978年の中国共産党11期3中全会により、中国は社会主義事業の新しい歴史発展時期に入り、国の民族工作は民族団結、少数民族経済、文化を発展させるとした。ウランムチもこの時期には、創作の自由をえて、多くのモンゴル劇、歌、舞踊が創作された。

一方、改革開放後の市場経済の導入は市場経済に対応したウランムチの管理運営が求められるようになった。内モンゴル文化局は1990年に自治区のウランムチ会議を開き、先駆的な改革をおこなったシリングル盟のウランムチの経験を紹介した¹⁷⁾。1988年に出された「シリングル盟ウランムチ改革方案」ではウランムチの管理運営の責任者である団長の任用条件や選出方法、職責を明確にした。また、団員の採用はそれまで地域や機関からの推薦制をあらため公募による任用制を行うようになった。そして、ウランムチの監督体制、評価細則などが定められ¹⁸⁾、ウランムチの団員の専門技術や学習を評価し、団員の学ぶ意欲を高めることが目指された。

このようにウランムチの改革は団長の管理責任制、団員の任用制を採用することから始まり、ウランムチの管理、運営を団長に任せるようになった。団長は責任をもってウランムチを運営し、各ウランムチは独自の発展を目指すことになったのである。ウランムチは活動を通じて、国家財政への依存からウランムチの芸術作品を商品にして市場に入り込んで利益を得、財政上の不足を補うとした¹⁹⁾。したがって、改革期のウランムチでは宣伝、指導、奉仕というこれまでの活動を行うとともに、興行活動においては行政イベントや各機関・団体のイベントなどの活動領域を積極的に開拓するようになった。

その一方、前項で述べたように、2003年に内モンゴル自治区党委員会と自治区政府は「三つの代表」²⁰⁾の重要思想を実践し、豊かな社会を構築するために「民

族文化大区建設」の目標を提示して、「綱要」を打ち出した。「綱要」では、「民族文化大区建設」にむけた2010年までの具体的な目標を示した。具体的な目標として9つのプロジェクト²¹⁾があげられ、ウランムチはの中で草原文化芸術ブランドプロジェクトの一つに位置づけられ、ウランムチは国内外文化市場における著名なブランドとしての地位を確立することがめざされた。同年に内モンゴル自治区ウランムチ学会の第三次会員代表大会でも、ウランムチは市場経済の需要に対応し、「民族文化大区建設」や自治区の社会経済建設の総合的な計画の中に組み入れられるべきであることが提起された²²⁾。

以上より、ウランムチの改革は興行活動において新たな活動領域を開拓するとともに、2003年からはウランムチの知名度を高めることが積極的に取り組まれるなど自治区の市場経済発展の主要な事業として位置づけられていることが看取される。

(2) ウランムチの創作品と民衆の文芸活動支援状況

①ウランムチの創作品について

ウランムチは民衆の現実生活の中から芸術創作の源泉を得て、多くの芸術作品を創作しており、モンゴル民族芸術の典範になっていると評価されている²³⁾。しかし、ウランムチは、少数民族地域にある固有の文化的伝統の保持と発展にも取り組んでいる一方、中国共産党の政策や社会主義思想の宣伝活動を担っている。そのため、ウランムチの創作し上演するプログラムは時代背景のもとで大きく変化している。

表1は内モンゴル文化庁編『ウランムチの路』と現地調査資料により上演プログラムの内容を分析したものである。「文化大革命」により停止されたウランムチは、1978年以降になると創作の自由を得、活動が回復するようになった。1978年の中国共産党11期3中全会に「二つのすべて」(毛主席の決定したことはすべて支持し、毛主席の指示はすべて変えない)を批判し、民族工作は回復状態になり、中華人民共和国国家民族事務委員会の機能も回復した²⁵⁾。内モンゴル自治のウランムチにおいても、1979年にウランムチ舞踊創作座談会、ウランムチ劇創作座談会、音楽創作座談などを開き、ウランムチの創作自由、モンゴル語での創作、民

表1 時期区分に応じたウランムチの上演プログラムの変化

時期区分	ウランムチの上演プログラムの特徴
1957年～1965年 ウランムチの草創期	党、社会主義思想を反映した作品を上演する同時に遊牧民の好む文化芸術を上演していた。しかし、1965年になるとウランムチの上演プログラムは毛澤東文芸路線革命思想の宣伝を中心に行う傾向になる。
1966年～1977年 ウランムチの停止期	全国各民族が党、毛澤東、社会主義思想を愛するという革命精神を反映した歌と演劇は多い。ウランムチの上演は革命样板劇 ²⁴⁾ （革命模範劇）をモデルにした。
1978年～1989年 ウランムチの回復期	党、社会主義内容を反映した作品を上演するが、モンゴル特徴を表現した草原、故郷、馬、モンゴル人物などの歌を中心に行うようになった。
1990年～現在 ウランムチの改革期	回復期とあまり変わらないが、各旗の地域文化を強調するようになった。

出典：内モンゴル自治区文化庁編『ウランムチの路』と現地資料より筆者作成。

間音楽の収集が強調された。回復期以降に、ウランムチはさまざまなものを題材にしたモンゴル歌曲を上演するようになった。例えば、モンゴル民族文化の特徴を表現した草原、馬、人物の歌曲などがある。その後の改革期におけるウランムチの上演プログラムは回復期のプログラムとあまり変わらないが、改革期の特徴としては、共通のモンゴル民族文化だけではなく、クロン旗やジャルト旗など各旗のローカルな地域文化を強調するという点がみられる。

②地域文化の形成—クロン旗の安代文化—

以下、通遼市のクロン旗の事例を取り上げて、地域文化の形成におけるウランムチの役割について検討する。

クロン旗は内モンゴル自治区通遼市の南部に位置し、総面積は4714平方キロである。2007年の総人口は177,416人であり、この中モンゴル人は104,988人(59.7%)、漢族は66,567人(37.5%)である²⁶⁾。1960年代に内モンゴル自治区の「文化旗」と命名されて、1996年には国家文化局によってクロン旗は「中国安代芸術の郷」と命名されている。

「安代」とはモンゴル族の伝統的な民間舞踊である。新中国成立以前の安代についての説明（定義）はさまざまである。このなかにおいて、比較的に通ずる

見解としては、「ボウ（シャーマン）が歌舞によって病気を治す特有の儀式であったということである」²⁷⁾。表2に示したように、安代が初めて文芸の舞台に登場したのは、「安代舞踊」という形で、1956年のクロン旗における民間アマチュア文芸公演であった。つまり、安代は「ボウ（シャーマン）」という宗教的色彩から舞踊の形に変わり芸術に至った。その背景にも、1956年の民間芸術文化遺産を収集・調査・研究するという国家政策により、安代の収集・調査・研究が行われていた。その後、「安代舞踊」はクロン旗のみならず通遼市や北京でも上演された。しかし、文化大革命に入り、「四人組」が安代に「国を裏切る道具」という罪を着せ、安代を収集・調査・研究していた民間の芸人が「妖怪」と批判された²⁸⁾。文化大革命後、安代の収集・調査・研究が1977年のジェリム盟文化局の「1977年の工作要点に関する通知」に改めて強調された。本通知では、民族文化の発展について、ジェリム盟文化局は民族文化研究グループを結成し、安代、好来宝²⁹⁾を収集・調査・研究すると強調した。そして、1980年にクロン旗ウランムチが舞踊劇「安代の歌」を創作し上演し、ジェリム盟の文芸コンクールで優秀な創作劇として評価された。1988年に、クロン旗ウランムチの団員ス・バテル（斯巴特尔）が編集し、劇として創作された「安代伝奇」は内モンゴル自治区の文芸コンクールで「双優秀」（創作部門、上演部門）を受け、この作品は「ホルチンのモンゴル劇」と命名された。

以上より、国の政策は民族文化の評価を左右する一方、民族文化の創作者にも大きくかわりがあるといえよう。例えば、上述のように、昔のボウに現れている宗教的儀式として上演される安代から1956年以降の芸術文化（作品）として創り出された安代という変化をみることができる。つまりボウに表れている安代は宗教的色彩があり、1956年以降の安代は新中国成立前の安代を収集・調査・研究し、安代舞踊を芸術作品として創作したものである。そして、この新安代もさまざまな形で発展し、単なる安代舞踊からモンゴル劇である「安代伝奇」になった。サルラは「「安代伝奇」は伝統的な安代が歌ったり、踊ったりすることを踏襲し、歌、舞、劇が融合し一体になった表現形式である」³⁰⁾と指摘している。

このように、「安代」は宗教的儀式から舞踊、劇へと発展し、この地域を代表する「安代文化」と総称されるようになった。近年のクロン旗ウランムチの上演

表2 クロン旗新安代³¹⁾の発展状況

年代	内容
1956年	クロン旗民間アマチュア文芸公演においてバインフワー村（巴音花苏木）の民間アマチュア芸術宣伝グループはハダ（哈达）とブハバイ（布和巴依）が伝統的な民間舞踊を収集し、作品として創作した安代舞踊を上演した。（安代舞踊が初めて文芸の舞台に登場した。）
1958年	内モンゴル東部民族劇が通遼市で上演され、クロン旗の代表演出隊は安代舞踊を上演した。（安代舞踊が初めて通遼市で上演された）
1958年	全国の「百万民間民謡」の会議が北京で開かれ、クロン旗の代表演出隊は安代舞踊を上演した。（安代が初めて北京で上演された）
1960年	内モンゴル自治区文化工作会議がクロン旗で開催された。会議では500人による安代舞踊が上演された。また同年、自治区政府によってクロン旗が「文化旗」に命名された。
1980年	クロン旗ウランムチが創作し上演した「安代の歌」はジリム盟の文芸コンクールで優秀なプログラムとして評価された。
1985年	ス・パテル（斯巴特尔）が編集し、クロン旗ウランムチが上演した安代劇「安代伝奇」は自治区の文芸コンクーで「双優秀賞」（創作部門、上演部門）を受けた。
1988年	内モンゴル文化庁は「安代伝奇」を「ホルチンのモンゴル劇」と命名した。
1996年	国家文化局によってクロン旗は「中国安代芸術の郷」と命名された。

出典：サルラ『安代文化に関する論述』内モンゴル文化出版社、2009年、pp.269～270より筆者作成。

では、クロン旗を代表とするものとして「安代舞踊」や「安代劇」の上演が多くなっている。ここから、クロン旗において「安代」が地域文化として形成される過程で、クロン旗ウランムチが重要な役割を果たしたことが指摘できる。

③ウランムチによる民衆の文芸活動支援

ウランムチのもう一つの任務としては民衆のアマチュア文芸活動を助言指導し、民衆のアマチュア文芸の指導者を養成することである。ウランムチ団員へのインタビュー³²⁾によると、ウランムチは各機関からの依頼に応じて歌、舞踊などを指導している。表3は、ジャルト旗ウランムチによる2011年の「ウランムチの指導日誌」である。表3からみると、ジャルト旗第一中学校の場合では、「学校の芸術祭」、「卒業生の送別会」で上演されるプログラムである舞踊をジャルト旗第一中学校の生徒に指導したということがわかる。また、2011年は中国共産党

の90周年であるため、行政機関は建党90周年の文芸コンクールを行うため、舞踊、大合唱、好来宝についてウランムチの団員に指導を依頼した。以上より、各機関はそれぞれの記念日や特別な活動を行うときに、ウランムチに指導を依頼していることがわかる。その他、ウランムチは農村遊牧地域に入る期間は六ヶ月以上であり、上演は120回以上であるべきという任務もある³³⁾。

④ウランムチの上演形態

農村遊牧地域に入り、農民、遊牧民に対して上演するのはウランムチの主要な任務である。

表4は、ホルチンジュンガルンヘートシュの『カンキカウランムチ大事記³⁶⁾』(以下、『大事記』と略す)から作成した2009年のカンキカウランムチの活動記録

表3 ウランムチの指導日誌

指導した日	指導者	機関	指導内容	上演する目的
2011/4/9	李莉	ジャルト旗第一中学校	「藍色な風」 (舞踊)	学校の芸術祭
2011/5/15	李莉	ジャルト旗第一中学校	「二人の草原」 (舞踊)	卒業生の送別会
2011/5/18	韓萍萍	ジャルト旗第一中学校	「モンゴル少女」 (舞踊)	学校の芸術祭
2011/5/20	李莉	ジャルト検察官	「吉祥川」(舞踊)	政法系統 ³⁴⁾ 建党90周年文芸コンクール
2011/5/21	斯琴高娃	ジャルト旗検察官	紅歌 ³⁵⁾ 大合唱	政法系統建党90周年文芸コンクール
2011/5/23	満宝、宝音、蘇和、賽那	ジャルト旗裁判所	好来宝	通遼市政治法律委員会建党90周年慶祝
2011/5/24	李莉	ジャルト旗第一中学校	「私のホルチン」 (舞踊)	政法系統建党90周年文芸コンクール
2011/5/24	宝音	ジャルト旗公安部	紅歌大合唱	全旗建党90周年慶祝紅歌大合唱

出典：クロン旗ウランムチ現地調査資料（2011年8月11日取得）

である。『大事記』にはカンキカウランムチにとって重要と認識された活動が記載されている。

本稿では、2009年の活動記録を祭りでの上演、行政イベントへの上演、各機関・団体のイベントでの上演、接待の上演に分けて分析し、ウランムチの活動の傾向をまとめた。①祭りでの上演では、春節での上演が行われている。②行政イベントでの上演からみると、通遼市の主な会議、行政幹部の懇談会での上演がある。③各機関、団体のイベントでの上演は通遼市の会社の懇談会、店の開業、歌曲コンテストでの上演である。④接待での上演は他の省からの来訪者（例えば、市長や企業社長）に対する上演である。

以上より、ウランムチの活動は農村遊牧地域での農民、遊牧民に対する上演奉仕だけではなく、各機関・団体のイベントでの上演など多様な形態が見られる。

4. 通遼市文化局によるウランムチ評価

通遼市文化局は現在のウランムチの活動に対し、どのようなところに重点において評価しているのだろうか。本項では、「内モンゴル自治区ウランムチ評価実施細則」（以下、「実施細則」）に着目し、その評価項目のどういう項目を重視しているかを分析することで、通遼市文化局がウランムチに何を期待しているかを明らかにする。そのことを明らかにすることはウランムチの民族文化活動の現状を明らかにすることでもある。

ここで取り上げる表5の「実施細則」は通遼市文化局が「内モンゴル自治区文



図4 遊牧地域におけるウランムチ（1990年代頃）（クロン旗ウランムチの写真）



図5 ウランムチの観光地での上映（2010年7月23日筆者撮影）

表4 カンキカウランムチ2009年の大事記

月	演出形態				その他
	祭り	行政イベント	各機関・団体イベント	接待	
1月	①通遼市春節の夕べ ②カンキカ春節の夕べ		①通遼市人民銀行 ②蒙東会社の懇談会		
2月		「両会」 ³⁷⁾			
3月		①旗の婦人連合会「三八」 ³⁸⁾ の夕べ②文化系統の「三八」の夕べ	①康臣薬会社②瀋陽蘭点蒙古食料理店開業祝い		
6月		①通遼市老幹部懇談会②通遼市老年ゲート・ボール試合開会式	①柏愛化粧品店開業三周年祝典②通遼市農牧業局③通遼市石炭技術学院「七一」 ³⁹⁾ 交歓会		
7月			①遼源鋳物局「七一」交歓会②遼源鋳物局の歌曲コンテスト	①天津「二五四」病院のリーダー	
8月			通遼市農牧局		①中央テレビ「ハッピー中国行」番組 ②「ホルチン民歌会」③通遼市文芸コンクール
9月		政治協商会議成立60周年交歓会	通遼市「移動通信」成立10周年祝典		
12月			商工行政管理局の交歓会		通遼市ホルチンウリィーグルコンテスト

出典：カンキカウランムチ現地調査資料より筆者作成（2010年7月14日取得）

化庁第4回自治区ウランムチ工作評価に関する通知」に基づき、ウランムチに対して評価を実施するために2009年に定めた細則である。「実施細則」は「ウランムチに対する指導の強化」、「ウランムチの基本任務」、「ウランムチの施設建設」、「ウランムチの人員養成」、「ウランムチの改革」、「その他」という6つの大きな項目で構成され、合計100点となる点数配分がなされている。6つの項目の中で、「ウランムチに対する指導の強化」が40点を占めており、最も重視されている。このほかウランムチの「ウランムチの施設建設」、「ウランムチの人員養成」、「ウランムチの改革」がそれぞれ10点である。また、小項目の中で、点数が一番高いのは③「ウランムチの年度事業経費に対する補助金は増加傾向にあるかどうか」(20点)という点である。次いで①「ウランムチの活動が党委員会、政府の行事日程に組み込まれているかどうか」ことと⑥「基層レベルへの上演が少なくとも年50回あるかどうか」が各10点である。すなわち、ウランムチは事業経費の確保を最も重要な課題とし、ウランムチの活動を旗政府の工作の中に組み入れることが求められているのである。

次に「ウランムチの改革」という大項目に着目する。この項目のなかに評価対象になっているのは⑯「ウランムチの改革を積極的に進め、絶えずにウランムチの発展の新しい道を探求し、著しい効果をあげているかどうか」、⑰「社会主義市場経済体制に適応する能力を絶えずに強め、活発に活動しているかどうか」と⑱「市場経済に対応して、ウランムチの経営が成功しているかどうか」という3つの点である。すなわち、社会主義経済体制に適応するため、ウランムチの改革は新しい方途を探求し、さまざまな領域の活動を開拓することが強調されている。一方で、小項目の中で、点数が低いのは⑫「団員の育成訓練」、⑮「団員の専門技術の習得」などで各2点である。ウランムチの改革は、市場経済に適応することが重視される一方で、ウランムチ内部における団員の育成については改革の項目には入っていない。

すなわち、自治区政府は「民族文化大区建設」という背景のもとに、ウランムチに対しての指導を強化し、ウランムチの年度事業費を増やし、ウランムチを旗政府の工作の中に入れるということが推進されているのである。カンキカウランムチの事例を取り上げると、カンキカウランムチは「企業誘致資金導入方式」

を取り、多くの観光客及び新規参入の事業者等を招き、商取引を促進することで、旗の中心工作の応援になっていると報じられている⁴⁰⁾。カンキカウラムチは2005年に上海「世界商品博覧会」、天津「中国第一回観光地博覧会」に演出し、旗の知名度を高めたといえる⁴¹⁾。

ウラムチの現団長もインタビュー調査で以下のように認識を示している⁴²⁾。

「『企業誘致資金導入方式』により入ってきた客（観光客及び新規参入の事業者等）に地域文化を理解してもらう必要があるが、文章を読むことでこの地域を理解するのは難しいのだ。草原文化芸術を舞台に展示させれば、客は自分で見、聞くことで草原の生活をもっと理解するようになるだろう。近年、我々は大量の民族特色がある芸術作品を編集し上演した。内モンゴルの中では、民衆に宣伝し、文芸演出により故郷を愛するようになる。内モンゴル自治区以外の省に対しては、文芸演出により「旗」の地名度を高め、「企業誘致資金導入」の範囲を拡大する役割をし、「旗」の中心工作の応援になった。同時に、「文化と企業の連携」の範囲を拡大し、いろいろな会社と連携したことで、大量の資金を得ることができ、設備を更新することもできた。つまり、演出レベルを高めるためにいい条件整備をつくったとともに経済敵的利益も得たのだ。」

以上より、ウラムチの上演を見ることにより、観光客が「草原の生活をもっと理解するようになる」ことが期待されている。加えて、地域の人々にとっては、「故郷を愛するようになる」ということも期待されている。しかし、現在のウラムチの活動が経済利益を重視している中で、農村遊牧地域での上演奉仕や団員の育成に対する認識は低い。内モンゴルの地域の人々がウラムチの活動を通じて、地域や民族文化を理解し愛着を持つようになるとは言い難いと思われる。

5. おわりに

以上、近年のウラムチが創作し上演したプログラム、上演形態の分析、行政によるウラムチの評価を通じて、改革期におけるウラムチの活動の実態の一端を明らかにした。改革期においてウラムチの活動が国の政策、経済、社会に

表5 内モンゴル自治区ウランムチ評価の実施細則（2009年）

大項目	小項目	点数
ウランムチに対する指導の強化（40点）	①ウランムチの活動が党委員会、政府の行事日程に組み込まれているかどうか。	10点
	②ウランムチの建設を当地の経済や社会発展の総合計画に入れているかどうか。	5点
	③ウランムチの年度事業経費に対する補助金は増加傾向にあるかどうか。	20点
	④健全なウランムチの建設、発展を指導しているかどうか。	5点
ウランムチの基本任務（20点）	⑤新しい創作や演出したプログラムが少なくとも年30回あるかどうか。	5点
	⑥基層レベルへの上演が少なくとも年50回あるかどうか。	10点
	⑦宣伝、指導、サービスの活動が少なくとも年20回あるかどうか。	5点
ウランムチの施設建設（10点）	⑧ウランムチは農村、遊牧地域へ演出の交通工具を備えているかどうか。	3点
	⑨稽古するホールの面積は最低300平方メートルで、その中には事務室、琴室などの施設があるかどうか。	4点
	⑩照明、音響、楽器、道具、服装などの備品がそろっているかどうか。宣伝、指導、サービスが行える整備があるかどうか。	3点
ウランムチの人員養成（10点）	⑪リーダグループは団結で実務に励み、団員を組織して当地の文化主管部門の任務を行っているかどうか。	2点
	⑫全団員に対して少なくとも年一ヶ月以内の育成訓練をしているかどうか。	2点
	⑬管理を強化し、団員の学習、稽古、訓練などを奨励する規則をもっているかどうか。	2点
	⑭団員の平均年齢は35歳以下であり、四級レベル以上の資格を持つ団員あるいは中等専門芸術学校の学歴をもっている団員が全団員の40%を占めているかどうか。	2点
	⑮団員は二つ以上の専門技術をもっているかどうか。	2点
ウランムチの改革（10点）	⑯ウランムチの改革を積極的に進め、絶えずにウランムチの発展の新しい道を探索し、著しい効果をあげているかどうか。	4点
	⑰社会主義市場経済体制に適応する能力を絶えずに強め、活発に活動しているかどうか。	4点
	⑱市場経済に対応して、ウランムチの経営が成功しているかどうか。	2点
その他（10点）	⑲ウランムチは国外、あるいは全国、全区レベル（自治区）の主な芸術イベントに参加し、ウランムチの知名度を高めているかどうか。	4点
	⑳ウランムチが国家、自治区、市の先進団体として表彰されているかどうか。ウランムチの団員が先進個人の称号を獲得しているかどうか。	6点

出典：ジャルト旗ウランムチ現地調査資料（2011年8月15日取得）

においてどのように左右されていたかについて2点指摘したい。

1つ目は、改革期におけるウランムチのプログラムの変化である。改革期では、ウランムの活動はローカルな地域文化を強調するようになった。たとえば、政府が「内モンゴル自治区文化大区建設綱要（試行）」を打ち出したことにより、各旗のウランムチは地域文化を強調し、各地域のウランムチのオリジナルな活動がみられるようになった。本稿で事例としてとりあげたクロン旗の場合では、クロン旗ウランムチはこの地域を代表とする安代文化を強調し、安代舞踊、安代劇を上演することにより地域文化を外に発信している。つまり、政府の政策がウランムチのプログラムに影響している。

2つ目は改革期におけるウランムチの上演形態の変化である。ウランムチは創設以来時々の政策や政治運動に制約されてきた。しかし、今日ではこうした制約に加えて市場経済のもとで経済利益を追求する傾向を強めている。ウランムチの改革期では、市場経済に積極的に適応することが目指され、「文化と企業の連携」という考え方が出てきた。市場経済への適応によってウランムチは活動の条件整備を進め、新しい活動領域を開拓している。

こうした動きの中にウランムチの新たな課題が生じてきているように思われる。

第一に政府の政策や市場経済という背景のもとにウランムチの活動の自律性が問われている。近年、ウランムチは行政や、外部の人々に招聘される興行活動が多くなる傾向が見られる。

第二に、そのようなウランムチの活動は民族文化を表層的に扱う傾向がある。市場経済やグローバル化の背景のもとに、ウランムチの活動は「文化と企業の連携」、「企業誘致資金導入方式」などにより文化と経済の両方の利益を得るとしている。これにより、基層レベルのウランムチの上演機会は少なくなり、イベントや接待での上演形態に移行する傾向にある。それに、自治区政府は文化の観光化や文化のブランド化により文化の発展を目指すとしている。ウランムチもブランド化の対象になっている。しかし、民族文化を商品化することにより、民族文化の保持、発展が表層的に扱われているといえよう。また、ウランムチの改革は経済利益を強調し、モンゴル民族文化の担い手であるウランムチの団員養成という

点が重視されていない。ここから、ウランムチの改革が進むことにより、民族文化の保持と発展というウランムチの本来の役割から離れていく憂うべき状況が進行する傾向がみられる。こうした状況に対して、どのように対処するのか、さらに少数民族文化の継承の可能などという点に求められるのかを究明することが課題として指摘される。

注

- 1) 中華人民共和国国务院新聞事務室「中国少数民族政策与实践」(「中国の少数民族政策及び実践」)、1999年9月、北京。
- 2) 張曉明・惠明・徐平「以科学观为指导推动少数民族文化加快发展」(「科学發展觀のもとに少数民族文化を促進させる」)『中国少数民族文化发展報告』民族出版社、2009年、p.8。
- 3) 内モンゴル自治区は行政上3盟、9市管轄区、11県級市、17県、49旗、3自治県に区分される。盟：内モンゴル自治区特有の地区級行政単位。中国の行政区分では市レベルにあたる。旗：盟の下に位置する行政単位。中国の行政で区分では県レベルの単位である。鎮：旗の下に位置する行政単位。中国行政では郷のレベルにあたる。
- 4) 1985年に「内モンゴル自治区ウランムチ工作条例」が出されるが、1985までに内モンゴル自治区文化局は1957年の「ウランムチの工作条例(草案)」を執行していた。
- 5) 本研究では、ウランムチの活動は政治的な影響により、完全に社会主義建設思想の宣伝の道具になったことをいう。ウランムチの独自性がみられなくなって、ウランムチの上演は革命様板劇をモデルにしていた。
- 6) ①上演。ウランムチは社会主義内容、民族の特色、地方の特性があるプログラムを創作し、民衆文化生活を豊かにする。②宣伝。ウランムチは図画展覧、スライド、映画の上演などを使い、民衆に党の路線、方針、政策を宣伝する。③指導。ウランムチは農村、遊牧地域に入り、民衆のアマチュア文芸活動を指導し、民衆のアマチュア文芸骨幹を養成する。④奉仕。ウランムチは農村、遊牧地域に入り、遊牧民、農民に生活、生産サービスを行う。例えば、図書の代理販売、撮影、散髪などである。
- 7) 「乌兰牧骑在改革中发展，在探索中壮大」(「ウランムチは改革のなかに発展し、探索の中に壮大する」)(クロン旗ウランムチ現地調査資料より2010年8月5日取得)。
- 8) 賽罕「关于发展乌兰牧骑事业的思考」(「ウランムチの事業の発展に関する考察」)『跨入新世纪的辉煌—内蒙古艺术研究所研究成果选2000-2009』内モンゴル大学出版社、2009年、pp.248-256。
- 9) 方李莉「如何保护我们的少数民族文化—贵州梭嘎生态博物馆的研究与思考」(「少数民族民

族文化を如何に守るか—貴州市梭嘎生態博物館に関する研究』『中国少数民族文化発展報告』民族出版社、2009年、pp.349-368。

- 10) 「中国少数民族报刊的历史和现状」(「中国少数民族新聞雑誌の歴史と現状」)『中国少数民族文化発展報告』 pp.52-63。
- 11) 「少数民族古籍的保护与抢救」(「少数民族典籍の保護」)『中国少数民族文化発展報告』 pp.81-93。
- 12) 1999年にジェリム盟を廃止して、地級市通遼市になった。通遼市政府ホームページ http://www.tongliao.gov.cn/gaik_text.asp?bid=198、2010.11.28
- 13) 「通遼市2010年第六次全国人口調査主要データ公報」通遼市統計局ホームページ <http://www.tltj.gov.cn/>、2012.9.13
- 14) ホルチンとはモンゴル族古い部落の概念であり、または、地域の地理的概念である。ホルチン文化はモンゴル族ホルチン地域のことを指している。
- 15) 小康とは、人間にとって最小限必要とする、衣食住、教育、保健などを満たした上である程度の文化と余暇水準を保てるような生活水準と、ややゆとりのある生活ができる状態をいい、2001年に江沢民総書記は、小康の初期段階が中国ではすでに達成されたとし、2010年までに「全面的に小康社会」を建設する目標を掲げた。
- 16) 正式の名称はホルチンジュンガルンヘートシュウランムチである。本研究では、当該ウランムチの所在地であるカンキカ鎮を使って通称であるウランムチと表記する。
- 17) 内モンゴル自治区文化庁編「烏蘭年牧騎之路」(『ウランムチの路』)内モンゴル人民出版社、1997年、p.203。『ウランムチの路』はウランムチが結成された40周年記念にかかれた記録である。この記録では、1957年～1997年までのウランムチの活動状況(創作上演したプログラム、場所、日時)、ウランムチに関する部分記事、ウランムチに関する通知、ウランムチの優れた団員の紹介などがまとめられた。また、ウランムチの成立50周年の記念として書かれた記録である『ウランムチを讀える』がある。上記は、ウランムチの研究をするための重要な参考資料になるが、本格的な研究ではない。
- 18) 同書 p.337。
- 19) 同書 p.357。
- 20) 三つの代表は江沢民・中国共産党総書記が2000年2月に発行した思想である。中国共産党は中国の生産的な社会生産力の発展の要求、中国の先進的文化の先進の方向、中国の最も広範な人民の根本的利益を代表すべきとするもの。
- 21) 9つのプロジェクトと言うのは、教育プロジェクト、逸品創作プロジェクト、民衆文化プロジェクト、人材養成プロジェクト、草原文化芸術ブランドプロジェクト、文物の守り、開発、利用のプロジェクト、文化産業開発プロジェクト、基礎施設プロジェクト、文化交流プロジェクトである。
- 22) 賽罕、前掲書、p.254。

- 23) 1997年6月7日「内モンゴル日報」(内モンゴル文化庁編、前掲書、p.374より)
- 24) 1966年11月28日に、中央文化革命リーダーグループは北京に首都文芸界プロレタリア文化大革命大会を開き、京劇「智取威虎山」、「紅灯記」、「海港」、「沙家浜」、「奇襲白虎団」とバレエ劇「白毛女」、「紅色娘子軍」及び交響音楽「沙家浜」など8部の文芸作品を「革命样板劇」とした。
- 25) 『当代中国』シリーズ編集部「当代中国的民族(上)」(『当代中国の民族工作(上)』) 当代中国出版社、p.161。
- 26) クロン旗人民政府ホームページ <http://www.kulun.gov.cn/>、2011.8.20
- 27) 白翠英「科尔沁蒙古剧的产生和发展」(「ホルチンモンゴル劇の発生と発展」)『民族文学研究』1997年、第1期、p.90。
- 28) サルラ、前掲書、p.264。
- 29) モンゴル族芸能の一つ。内モンゴルで流行したもので、元来は民間の歌手が1人で演じたものだが、現在では独唱、対唱(2人でやりとりする歌)、合唱があり、四胡や馬頭琴などで伴奏する。
- 30) サルラ『安代文化に関する論述』内モンゴル文化出版社、2009年、p.264。
- 31) サルラによると、新安代とは1956年の民間芸術文化遺産を収集・調査・研究するという国政策、方針のもとで、芸術の形に変化した安代舞と安代劇のことであり、これを民間芸人安代舞、専門芸人の安代舞、安代健身(フィットネス)舞、安代体操に分類することができるという。(サルラ『安代文化に関する論述』内モンゴル文化出版社、2009年、p.267より)
- 32) クロン旗ウランムチ団員へのインタビュー 2011年8月11日。
- 33) 達阿拉坦巴干・朱嘉庚『乌兰牧骑赞』(『ウランムチを讀える』) 内モンゴル自治区ウランムチ学会、1997年、p.65。
- 34) 裁判所、公安部、司法局の通称。
- 35) 革命と祖国を讀えた歌曲。
- 36) 正式のタイトルは『科左後旗烏蘭牧騎大事記』であり、本稿では、『カンキカウランムチ大事記』という。編年による記録集のこと。1964年～2009年の重要と認識された事柄を記録した資料集である。
- 37) 全国人民代表大会と中国人民政治協議會議の略称。
- 38) 3月8日。国際労働婦人デー。中国では「三八婦人節」という。
- 39) 7月1日。中国共産党創立記念日。
- 40) 「通遼日報」2005年6月3日。
- 41) 『カンキカウランムチ大事記』より。
- 42) カンキカウランムチ団長へのインタビュー、2010年7月16日。

**A Study on the Folk Cultural Activities in Inner
Mongolia Autonomous Region
— Focusing on the “Wulanmuqi” of the
City of Tongliao in China —**

Guilan HONG

This study aims to clarify the actual situation of cultural activities in Inner Mongolia Autonomous Region, through a case analysis of a folk art organization called “Wulanmuqi.” More specifically, this study examines the programs and style presented by the “Wulanmuqi.”

According to the residents across Inner Mongolia Autonomous Region, the “Wulanmuqi” is a folk art organization that operates in various regions in the city of Tongliao in China. The organization has played a role in the conservation and development of ethnic minority culture.

The “Wulanmuqi” was established in 1957. This study focuses on the organization’s activities from 1990 onward, and it shows the current trends concerning the art groups of Inner Mongolia Autonomous Region.